

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成27年6月9日実施】

平成26年度自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 育成人材像	1 理念・目的・育成人材像	2.9		<p>学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことにかかりの力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。</p>	<p>業界の変化に対応するため、育成人材の見直しは、常にかつ組織的に行われなければならない。本校では、その専門職として、ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(※)を置き、育成人材像から学科の教育内容の見直しを行っている。</p> <p>※ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC) 専門学校における教育の構成要素 ①養成目的と教育目標(社会ニーズと卒業時到達目標) ②目標達成プロセス(カリキュラム・学年歴・時間割・シラバス・コマシラバス) ③目標達成素材(教科書・教材・教育技法) ④目標達成支援人材(担任・専任教員・講師) ⑤評価基準(透明性・公平性・競争性) を学校・学科の独自性・有効性に役立つよう改革する核となる人材。</p>	2.8		<p>市川:授業内容向上のためにFDCは具体的にどのような取り組みをされているか。(社会の要請や変化に合わせた見直し)</p> <p>八木下:的確な自己評価の出来る人材育成をお願いしたい。</p> <p>綿引:多様性の対応、常に常識的な行動力が考えの規範として求められる。</p>
	2 学校運営	2 運営方針	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。</p>	3	
3 事業計画	3		<p>事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。</p>	<p>事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。</p> <p>その運営のチェック機能として ①学園の常務会議 ②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議) ③運営会議(学科責任者会議) ④学科会議、部署会議 があり、計画遂行の確認をする。問題点を早期に見出し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。</p>				
4 組織運営	3		<p>意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。</p>	<p>会議については下記2点を重視している。 ①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール また、会議についての研修を実施している。</p>				
5 人事・給与制度	3		<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務は情意効果として評価している。 目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。 また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>				
6 意思決定システム	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>会議は 1. 法人理事会・評議員会 最高決議機関 2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議 3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 決定事項の周知 6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会) 8. 様々なプロジェクトの会議がある。</p>				
7 情報システム	3		<p>個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。ここで重要なことは、何のための情報システム化をしているのかという点である。入学前、在籍中、卒業後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。</p>	<p>特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。このことが、退学防止、就職支援へとつながっている。</p>				

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成27年6月9日実施】

平成26年度自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	8 目標の設定	3		教育指導要領に基づき理念に沿った教育を行っている。また教育到達レベルも明確に明文化されている。	学校独自の教育システム PCP教育プログラム MMP教育プログラム	2.8	市川: PCP、MMPが国家試験の通学生の合格率100%につながっていると考える。 小山: 他の専門学校に比べてコンテストが少ない。 八木下: MMPの中の動機付けの方法が知りたい。判断材料の明確さとは、良い悪いを判断する時の目標となる物を解りやすくし、自分でその差異が理解させられるかがポイントと考えている。 低学力・低意欲の学生への支援は、どの学校でも解決が困難な問題である。粘り強い支援と継続することが重要である。 綿引: 地域を巻き込んだ特性を教育に盛り込んでいけると良いと思う。
	9 教育方法・評価等	3		養成目的・教育目標を立てたうえで、卒後の業界の求める人材育成を実施している。単なる「職業教育」から「職業人教育」へと教授内容・方法をシフトさせており、その根底にならしているものとしてキャリア教育の観点を取り入れている。	養成目的 教育目標 キャリアロードマップ		
	10 成績評価・単位認定等	2.9		教育成果を図るための評価基準は明文化されている。また、職員のみならず学生はもちろんのこと、保護者会を通じて保護者にも周知している。国家試験合格のための知識・技術の向上を中心とした教育プログラムとなっている。このため、外部コンテストで求められる技術や特に創造力を育む教育プログラムの導入を検討する必要があると感じている。	学生便覧 学則施工細則		
	11 資格・免許取得の指導体制	3		美容師免許取得は学科としての必須命題である。このため法律に則った教育の施行を遵守し教育にあたっている。平成26年度は全員が国家試験に合格をした。今後万が一不合格者が出た場合は卒業後も無料で国家試験対策講座を実施している。 ※美容師国家試験通学課程新卒者合格率100%(92名/92名) 平成27年3月実施	学生便覧 学則施行細則 卒後支援プログラム		
	12 教員・教員組織	3		教員の体制については特に問題はないが、多様化する学生への学習支援が求められている。特に学習習慣がない・低学力などの学生に対する教育支援が課題となっている。	講師会議 科目連絡会 国家試験対策教員勉強会		
4 学修成果	13 就職率	2.7		就職率に関しては開校以来100%を維持してきたが、平成26年度に初めて未内定者を出した。就職率と専門就職率は共に90%を超える数値で、高い水準を満たしている。これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。未内定者については、受験先が決まらないという理由が多く、今後のキャリア支援のプログラムを見直し、強化していく必要がある。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターの目的は ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう: 入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援: 在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 窓生(卒業生)のキャリアアップ支援: 卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチング などの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	2.6	市川: 通信課程生の合格率向上への方策はどのようなことが考えられるか。未内定者への今後の就職支援は何を検討されているか。(5月に全員決定) 八木下: 就職後の追跡調査による、スキルアップを観測することにより社会貢献度を測るのはいいかがか。 綿引: 業界との交流を徹底するのがよい。
	14 資格・免許の取得率	2.4		各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。	資格特別対策講座を、各資格で必ず取り入れている。美容師国家資格では、10年以上全国平均を上回る結果を残している。平成27年3月美容師国家試験合格率、100%を実現。		
	15 卒業生の社会的評価	2.4		卒業生の社会での活躍は年々大きくなってきている。有名サロンへの就職のみならず、芸能人のヘアメイク、オリンピックにおけるメイク担当などグローバルな活躍をする卒業生も増えてきている。卒業生の活躍は求人票の多さにも現れている。在校生は、実習活動や卒業研究を通して社会で活躍している。今後も在校生の活躍の場を広げていく取り組みをし、学園の考えである「職業人教育を通じて社会に貢献する」人材育成をしていく。	卒業生の海外での活躍や、世界的なイベントでのヘアメイク担当など、活躍はグローバル化している。 例) 美容師科1期生: 佐藤 千栄(TONI&GUY、ロンドン アートディレクター) 2014-2015 British Hairdressing Award AvantGarde 優勝 2014 AIPP国際大会アバンギャルド部門 優勝		
5 学生支援	16 就職等進路	3		開校以来、就職希望者内定者98~100%他の実績で表されているように、就職指導体制は高いレベルであると思われる。	【ジョブナビの活用】 美容室の求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人共有することができ多くの情報を得ることができる。また求人無駄にすることなく活用することができる。 【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。	2.8	市川: 開校時と比べて退学率が7ポイント下がっていることは素晴らしいと思う。精神的に課題を抱える学生も増える中で、全教職員がカウンセラーの資格を取られカウンセリングマインドの育成につとめられている点は素晴らしいと思う。
	17 中途退学への対応	2.4		専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の退学者率は3%台となっており、退学者率は一般の水準より低いと考えている。今後は、退学者率0%に向けた取り組みの一環として、まずは平成27年度以降は退学者率が常に3%を下回ることを目標にする。	担任、学科長、事務局長の連携、またSSC(カウンセラー)との連携によって、一人一人の学生の個性に合わせた対応をしている。また、学習ポートフォリオの活用で自己肯定感を高めることに注力している。		
	18 学生相談	2.8		JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。全教職員が「JESCCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。学生相談体制はかなり高いレベルであり、それが、近年の退学者率減少に結びついていると考えている。留学生の受け入れ体制は強化していく。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&カウンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶科学教育研究所)が主催する「JESCCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズになっている。		
	19 学生生活	2.7		クラブ活動に関しては学生満足度を高めるためにも設備、システムの充実化を図る。現在、クラブは2団体しかなく、今後、追加も検討する。	ダンスサークル フットサルサークル		
	20 保護者との連携	2.4		入学前、入学式、在籍中、卒業式時の保護者会の開催は、学校として重要な学生支援のプログラムと考えている。年何回の開催が妥当なのかは、まだ、明確ではない。保護者との連携、協力体制の維持向上に向けた取り組みを強化する。	保護者会やコンテスト参観など保護者とのコミュニケーションの機会を設けているが、連携を図るべき保護者との連携に課題がある。		
21 卒業生・社会人	2.5		卒後の就職や転職の支援は整備されている。また、教育支援プログラムは年々多くしている。また、同窓会組織を使ったネットワーク作りは、今後その業界に卒業生を送り込む学校として大変重要だと考える。同窓会を組織し、その繋がりで求人を頂き、実習を受け入れてもらうなど多くの成果が表れてきている。近年、業界で実際に働いている卒業生講師なども採用し、在校生にとっては何年後かの将来像となり、大きな目標にもなっている。同窓生を対象とした技術向上支援等の充実については、今後の検討課題となっている。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。また、開業支援プログラムや卒後技術講習会など実施をしている。			

学校法人 東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【平成27年6月9日実施】

平成26年度自己点検自己評価(平成26年4月1日～平成27年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
6 教育環境	22 施設・設備等	3		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備は整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てそろえた環境として、承諾を得ている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	3	市川:卒業生に対しても設備を提供されている点は、技術面、キャリアサポート面からも素晴らしいと思う。
	23 学外実習、インターンシップ等	2.6		学外実習・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	美容師科では2週間に及ぶ現場実習を実施している。		
	24 防災・安全管理	3		防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。	・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ※職員防災研修:平成26年12月16日実施 ※学生避難訓練:平成27年1月22日実施 ※職員消火訓練:平成27年1月22日実施 ・AEDの全校舎設置 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計2台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。 教職員には、使用方法の講習済みである。校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。		
7 受学生入のれ募集と	25 学生募集活動	3		学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	原宿好き、美容好き、ファッション好きの高校生を対象に、その顧客の期待を上回る価値の提供に努めている。(価値:原宿コラボレーション) 授業内容や、体験授業でその体験化を図り、HPやスマホ、Twitterなどで多くの人に見てもらえるように情報発信に注力している。	2.8	市川:土日毎にオープンキャンパスが実施され、学校情報の提供と生徒募集の両面が充実している。
	26 入学選考	3		入学選考の基準は明確に定められ適性に入学選考が行われている。入学者数の予測を踏まえ財務を考えている。	入学選考評価シートを活用した評価の画一化 職員研修による入学者支援の策定		
	27 学納金	3		学納金については算定の内容を明確にしておりかつ毎年見直しを行い決定している。入学辞退者の授業料の扱いも文部科学省の通知趣旨に則って行っている。	入学金、授業料、諸費用を分けて学費徴収することで、教科書・教材費に関して無駄な費用請求を無くしている。 入学辞退者に関して3月31日までの申請に関しては、原則入学金以外の費用を受験生に返還している。		
8 財務	28 財務基盤	3		短期・中期・長期の収支計画を立て財務状況の健全維持に努めている。収支・キャッシュフローの状況についても適宜確認できるようになっている。学外に学校会計を担う株式会社があり財務面での処理については中立公正の立場で会計処理を実施しているため不正行為も未然に防げるようになっている。	学校法人東京滋慶学園財務諸表。	3	特になし
	29 予算・収支計画	3		厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	本部による財務状況のチェックを毎月受けている。また監事及び公認会計士による監査、行政への報告などを行っている。		
	30 監査	3		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。 これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	31 財務情報の公開	3		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法令等の遵守	32 関係法令、設置基準等の遵守	2.4		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、平成18年度で完全に整備させた。また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	2.8	市川:コンプライアンス運営及び個人情報保護のために定期的研修、知識のチェックがなされると尚良いと思う。
	33 個人情報保護	2.4		平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(=研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。		
	34 学校評価	3		学校評価は適切な手順・方法で実施をされており、評価結果についても学校情報の一部として公開をしている。	学校ホームページにて学校情報を公開している。 ・学校評価(平成25年度)		
	35 教育情報の公開	2.4		自己点検・自己評価の結果を学校情報としてホームページ上に公開している。情報公開という点では公開手段は現社会情勢に合った方法をとっており、実施内容は問題ないと考えている。 しかしながら情報公開に関しての喧伝活動を積極的に行っていないため、今後、学校情報の周知に関する手段については検討の余地がある。	学校ホームページに下記情報を掲示している。 ・学校情報:トップページよりリンク ・職業実践専門課程:トップページよりリンク「別紙様式4」への導線を敷いている。		
献1・0 地域社会貢献	36 社会貢献・地域貢献	2.2		学校としての社会貢献・地域貢献はその活動規模が小さいため目立ってはいないが、教育につなげて実施している。また、学園をあげての取り組みとして、地球温暖化防止のための日常行動の注意喚起がある。	地球温暖化対策の中で、学生への啓蒙活動としてポスターを掲示している。 現在は、教職員に対してはクールビズとウォームビズ、電気使用について節電を徹底し、発電におけるCO2排出の抑制に努めている。	2.6	特になし
	37 ボランティア活動	3		地域密着イベントに教育的観点から学生と共にボランティアとして参加をしており、今後も積極的に取り組んでいく。	・全国盲導犬協会の募金箱を校舎毎に設置 ・赤い羽根共同募金寄付 ・歳末助け合い運動寄付 ・平成27年度より医療支援団体(Make a Wish)への寄付を予定		